

School trip to  
Ishigaki island

11月8日(月)~11月11日(木)



# 南国の風に吹かれながら ~adventure course~ 後編

修学旅行  
取材日記  
8

**上** 流の船着場からは展望台に向けて30分の山道になる。ただし、しっかりとした舗装はされておらず、一歩足を滑らせればどこへ落ちるかわからないような所である。岩で滑らないように気をつけながら、一人分しかない道幅に行く。

時間を知るために見た携帯のディスプレイには『圏外』の二文字。まさに外界から隔絶された時間を過ごす。なかなかない経験に想うことは多い。普段は見かけない植物も多くなり、薄気味悪さを覚えるようになった。まるで地の果てにでも向かうような気持ちだ。

そうこうしているとようやく開けた場所に出た。展望台に着いたのだ。そこからは一つ目の目的地である『マリユドゥの滝』が見える。各々写真撮影を楽しんだ後はすぐに出発。次の目的地『カンピレーの滝』へ向かう。この行程は先程よりも短い15分の徒歩の予定なのだが、歩いているうち

には永遠のような錯覚を受ける。終わりのない迷子が続いているような感じだ。どこを歩いているのかもわからなくなる。方角なんてとうに忘れた。ただただ、無心で山道を進む。

カンピレーの滝に到着。そこでは長い年月の間に流れる水に削られた岩肌が自然の雄大さを感じさせてくれた。

## 星の砂と水牛と

お昼を済ませた後、一行は『星の砂』で有名な『星砂の浜』へと向かう。そこでは星の砂を探す人、綺麗な海を背景に写真を撮る人など様々であった。

次に向かったのは本日最後の行程となる『由布島』だ。西表島とは薄く水を張った土地で繋がっている。そこを『水牛車』で渡る。水牛の体は思っていたよりも大きく、牛車から見えるその背中がとても頼りがいのあるものに見えた。水牛には『優作』、『小次郎』と

いった名前が一頭一頭につけられていてそこには愛着を感じる。一步一步がゆっくりで、それでいて確実で。水が張っていて不安定な足場をしっかりと進む。

由布島で見学を終え、その帰り道。乗務員の方がBEGINの『島人ぬ宝』を披露して下さった。地元で生まれ育った方のその歌声とともに牛車の中を通り抜けた風は、ここでしか学べないことを少しだけ教えてくれた気がした。(藍)

道なき道を行く一行

カンピレーの滝で写真を撮る。



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

